

変えよう鎌ヶ谷!市民が主役 県政通信

千葉県議会議員

岩波はつみ

発行：2023.01.10 No62 (通算)
 発行者：千葉県議会議員 岩波初美

■岩波初美事務所■

〒273-0124 鎌ヶ谷市中央 1-1-34 前田ビル 3F
 電話 047-445-5780 FAX 047-445-5790
 メール kamagaya@iwanamihatsumi.com
 活動ブログ <http://iwanamihatsumi.com>

新春のお慶びを申し上げます。



昨年末に2年半所属していた議会会派を離脱して、元の一人会派に戻った。政党ではない無所属議員の会派では、議員が各自の主張を表現し行動できるはず。だが実際は、見相問題のように県行政と厳しく対峙してきた結果、私と執行部の緊張関係に、無関係な会派の議員を巻き込んでしまうこととなった。年明けには国に対して現状と制度改正を訴える予定。周囲にご迷惑をかけず、かつ、目的に向けて緩めず行動するには、会派を離脱し、一人会派になることが最善と判断した。

「鎌ヶ谷市が買って活用して欲しかった」(県関係者) 新鎌ヶ谷駅南口県有地を民間に売却、公益的活用に壁

■鎌ヶ谷市なら半額で買えたはず

新鎌ヶ谷駅南口の県有地(7,000㎡)が鎌ヶ谷市からの要望を受けて、昨年11月民間への売却公募が始まった。1月までに購入希望者を募り、3月には決定するという。

市が希望した条件は、南北通路と歩道と賑わいへの活用。「賑わいと言われても、具体的に何をすれば...」「鎌ヶ谷市なら安価に購入できたのに、なぜ自身で購入して活用しないのか？」等の率直な思いを県側は抱いている。市はどこで汗をかくのか？

地代が半額なら当然公益的利用に資することができるが、規定金額では収益事業を優先することになる。どこまで市民要望が反映できるか、狭い希望の道を探る。

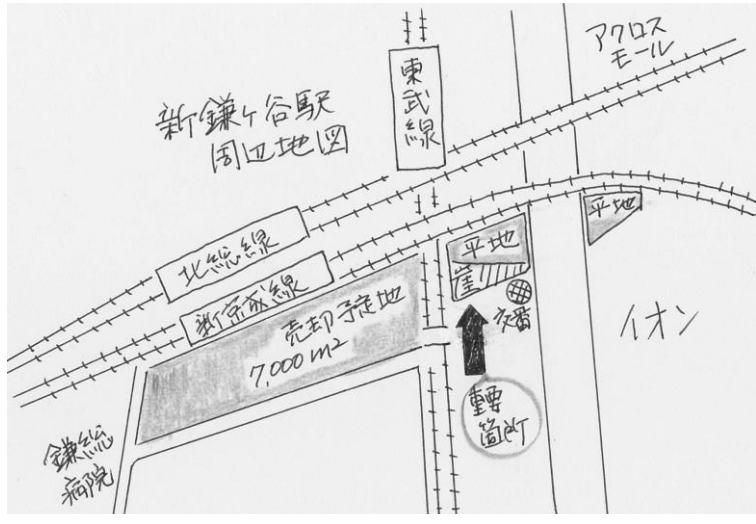
■「にぎわいのために活用して」と県に言われても...それは市の仕事では。

市は賑わいに資する活用をと述べるだけで、その作業を県に丸投げ状態となった。当該地はメイン道路に接しないため、通路ができて人々が波のように駅を利用できる環境にはない。賑わいを実現するには、人の動線は極めて重要だ。

■駅南側から人々を導く通路&広場を

地元県議として県に要望していることは、近接した重要箇所の活用だ。半分斜面地の2,000㎡を使って、イオン方面からの人々を、東武線の上を跨いで、新鎌ヶ谷駅南口に誘導する、通路&広場のような公共空間を作ることにはできないだろうか。

岩波はつみ県政報告会
 お知らせ
 日時:2月18日(土)11時30分~13時
 会場:中央公民館 集会室
 参加自由



【新春の誓い】できないはずはない！自主財源確保

議員の仕事の基本は、毎日のように頂く困りごと対応。解決できない事柄もあるが、最低でも理解いただくことを目指す。相談対応を重ねる経験から情報、人脈、判断力が身につく。具体的事例に向き合うことで、共通する問題の根を手繰り、法令制度の改善につなげるのが議員の仕事だ。

対応にお金が必要となることで、市は普及拡大ができなくなることを懸念。道路だけでなく、下水道もそう。つまるところは、市の自主財源を拡大させる取り組みこそ、最優先課題である。

その一つに、下水道はいついつ入るのか？と方々で聞かれる。毎年1%ずつの普及率進捗を目途にしている鎌ヶ谷市。令和元年度で普及率67%、2046年に94%を達成目標という。この目標を達成するには、将来にわたる市独自の財源確保が課題という。今後、現存の下水道の老朽化

財源を確保すること...これは、政治と行政の働きによって可能だ。11月から新鎌ヶ谷駅にスカイライナーが停車。これだけの交通インフラが整った鎌ヶ谷市に人を呼び込めないわけではない。イベント会場がない、飲食店がない、事業用地がない、住宅用地もない...用地の供給は鎌ヶ谷市が都市計画を変更して行う作業。イベント会場確保は市から開発事業者さんに要請して実現して欲しい。



東武鉄道を跨ぐ歩行者専用通路&広場が欲しい

【2023 年新春 私の意見】

鎌ヶ谷市北千葉道路地下化で街づくりの会 代表 種田扶美江
北千葉道路は地下が良い！高架では地価は下がる

昨年9月、流山市民で40年前に常磐道の地下化を実現させた、熊田仁一さんを招いて講演会を主催しました。「高速道路ができれば地価が下がる」と発言され、道路ができれば市も市民も豊かになると聞いていただけに、大変ショックを受けました。



2022年11月、国会議員会館にて国土交通省担当職員に鎌ヶ谷市個別状況を伝え、情報交換を行った。(種田代表と私)

「決まったことだから今更言えない」そんな議員では困ります。議場で市・県・国に向けて訴え、鎌ヶ谷市民の利益を主張できるのは鎌ヶ谷市の議員しかいません。

「地下にすると事業費が余分にかかるから道路は実現できなくなる」と広報かまがやで市は説明しましたが、地下、高架の計算はしていないという公式見解です。有料道路として造るという計画も説明されてきましたが、実際は実行されていません。

市内道路予定地は、今後市街地に変更できる可能性のある場所です。だから道路は地下に埋めて地価を高めて欲しいのです。

高架では市内の渋滞問題は解決出来ず

常磐道地下化活動リーダー/熊田仁一
鎌ヶ谷市全体の道路渋滞は、北千葉道路ができれば改善するなんて言うのは 勉強不足と言って良い。市内渋滞を解決出来るような北千葉道路にして欲しい、と国に言えば良い。今の高架案では、市内の道路渋滞を解決出来ず、酷くなるだけです。

国が鎌ヶ谷市民の為になる道路を作る訳がない！現場を知らずに計画図を作っていることを指摘して、遠慮なく騒いだらよい。黙っていたら 計画通りになり、皆迷惑して出て行くだけです。

10月ジュネーブ国連人権委員会にて 児相問題日本政府への勧告勝ち取る



昨年10月、スイスジュネーブ国連人権委員会にて、子と引き離された母親らが千葉県から参加し、英語で日本の現状を訴えた。

2022年10月、「児相と親子の架け橋千葉の会」役員2名がスイスジュネーブで行われた国連人権委員会に参加した。各国代表の審査委員6名に直接スピーチして質問を受ける。その内容に対して、日本政府から派遣された役人が見解を説明し、その言い分に対して、母親らは反論をまとめ審査員に提示した。結果勧告へという、民主国家の議論のやり方を見せつけられた。

一方、国内では、裁判導入に向けワーキングチームが動き出し、架け橋千葉の親たちは調査に協力し、実態を国に伝えている。

岩波初美 (イワナミ ハツミ) 経歴

- 1959年(昭和34年)山梨県生まれ 鎌ヶ谷1丁目在住
- 夫・夫の母・子ども3人・孫4人(岐阜県/大阪府在住)
- 千葉大学教育学部卒業、千葉工業大学大学院修士課程修了。
- 大学卒業後、生活協同組合職員8年、鎌ヶ谷市議会議員4期。NPO法人役員、会社役員を経て、アクアライン800円提言・実現。千葉工業大学特別講義講師11年間務める。鎌ヶ谷市長選挙に3回挑戦。
- 現在 2019年4月より千葉県議会議員、知的障がい者グループホーム職員、NPO法人元気になろう福島理事、児相と親子の架け橋千葉の会世話人。

■一時保護時の説明と同意の取り方に関するアンケート調査より抜粋(厚労省ワーキングチーム資料)

1. 私を感情的な人間で、母親失格と決めつけている内容で、非常に不愉快だった。虐待犯と決めつけて、偏見に満ちた内容だった。
2. 支援記録、心理記録などを拝見したが、保護者、児童、家族への、事実無根の誹謗中傷、人格攻撃、人格否定ばかりが、100枚近くあり恐怖を感じた。
3. 理由が「不適切な養育」との記載の書面交付のみで、具体的な説明はなかった。審判では、両親は理解に乏しく反省が足りない旨の主張書面が提出された。
4. 骨折して病院退院の日に突然引き離され、病院から「不自然な骨折なので児相で保護します。」と説明があっただけ。
5. 抱っこからの落下だと説明し、何度も虐待ではないと伝えたが、「母は虐待を否定し続け、、、」と児相からの書面には書かれていた。

■2022年11月、国連から日本政府への勧告抜粋

裁判所による命令、あるいは児童虐待の明確な証拠もなく、子どもが家族から分離されること、児童相談所に一時保護され、しばしばその期間が長期に渡ること、裁判所が一時保護状を発することが必要かどうかを検討する司法手続において、両親が自らのケースにおいて弁明手続を行うことができない事態を懸念している。

子どもを家族から分離する明確な基準を確立し、全てのケースにおいて令状を伴う義務的司法審査を導入し、子どもが家族から分離されるのは、子どもと両親にヒアリングを行った後、それが子どもの保護と利益のために必要である時に、最終手段としてのみ行われることを保障するための法改正が必要である。

2025年11月4日までに、委員会が行った子どもの権利に関する勧告に対する実施情報を提供するよう要請する。